



講義概要

指導計画

Curriculum & Syllabus

2023

こども未来学科

保育士養成科

南海福祉看護専門学校

2023年度開講科目

こども未来学科／保育士養成科

系列	教 科 名		単位数		担当者	1年		2年		ページ
			必須	選択		前期	後期	前期	後期	
教養科目	人権教育	講義	2		北村	○				1
	情報技術	演習	2		永野	○	○			2
	基礎教養講座	演習	2		木下・小川・吉川			○	○	3
	英語(選択)	演習	2		白濱	○	○			4
	体育講義	講義	1		相奈良	▼	▼			5
	体育実技	実技	1		相奈良	▲	▲			
保育の本質・目的 に関する科目	保育原理	講義	2		木下	○				★ 6
	教育原理	講義	2		木下		○			★ 7
	子ども家庭福祉	講義	2		北村		○			★ 8
	社会福祉	講義	2		原	○				★ 9
	子ども家庭支援論	講義	2		吉川	○				★ 10
	社会的養護Ⅰ	講義	2		原		○			★ 11
	保育者論	講義	2		木下				○	★ 12
	保育原理Ⅱ(選択)	講義		2						
保育の対象の理解 に関する科目	保育の心理学	講義	2		野出		○			13
	子ども家庭支援の心理学	講義	2		野出			○		14
	子どもの理解と援助	演習	1		野出		○			15
	子どもの保健	講義	2		飯盛	○				★ 16
	子どもの食と栄養	演習	2		大杉			◎		17
	カウンセリング(選択)	演習		1	野出			○		18
	保育の計画と評価	講義	2		木下			○		★ 19
保育の内容・方法に関する科目	保育内容総論	演習	1		吉川				○	★ 20
	健康	演習	1		吉川		○			★ 21
	人間関係	演習	1		木下		○			★ 22
	環境	演習	1		板谷		○			★ 23
	言葉	演習	1		小川		○			★ 24
	表現Ⅰ	演習	2		森崎	○	○			25
	乳児保育Ⅰ	講義	2		小川	○				★ 26
	乳児保育Ⅱ	演習	1		小川			○		27
	子どもの健康と安全	演習	1		飯盛			○		★ 28
	障害児保育	演習	2		服部			○	○	29
	社会的養護Ⅱ	演習	1		原			○		★ 30
	子育て支援	演習	1		北村			○		31
	造形表現Ⅱ	演習	1		板谷				○	32
	表現Ⅱ	演習	2		森崎			○	○	33
	造形表現Ⅲ(選択)	演習		1						
	子どもと文学(選択)	講義		2						
	音楽表現Ⅰ	演習	2		森崎・原	○	○			34
	造形表現Ⅰ	演習	1		板谷	○				★ 35
	身体表現	演習	1		相奈良			○		36
	言語表現	演習	1		北村	○				★ 37
	音楽表現Ⅱ	演習	2		森崎・原			○	○	38
	レクリエーション実技	演習	2		北村	○	○			39
	レクリエーション概論(選択)	講義		2						
保育実習	保育所実習Ⅰ	実習	2				○			
	施設実習Ⅰ	実習	2						○	
	保育実習指導Ⅰ	演習	2		小川・木下・板谷・吉川	○	○			40
	保育所実習Ⅱ	実習		2					○	
	施設実習Ⅱ	実習		2					○	
	保育実習指導Ⅱ	演習	1		小川・板谷			○		41
総合演習	保育実践演習	演習	2		板谷			○	○	★ 42
	卒業研究	演習	1		北村				○	43
					森崎				○	44
					木下				○	45
					小川				○	46
					板谷				○	47
					原				○	48
					吉川				○	49
	ホームルーム					○	○	○	○	

※「保育所実習Ⅱ」または「施設実習Ⅱ」のいずれかを必修とする。

※○は1コマで15回授業

※▲▼は合わせて30回授業

※◎は2コマで30回授業

※★は「実務経験のある教員による授業科目」の指定科目

授業科目名	人権教育	講師名	北村博文
実施年次 ／時期	1 年次 前期	時間数	30 時間
概要 人権についての行政の取り組みなどの情報にふれることで、人権を自分自身に関わる身近な問題として、気づき、考え、行動してもらえらるための授業です。また、人間として幸せに生きていくために必要な人権問題を学びます。			
目標 1. 人権教育の基本的な意義と目的の理解ができる 2. 人権教育への取り組みについて理解ができる 3. 保育者としての様々な人権感覚を養うことができる			
内容 1. 人権について 2. 人権への取り組み 3. 女性の人権について 4. 子どもの人権について 5. 高齢者の人権について 6. 障がい者の人権について 7. 外国人等の人権について 8. ハンセン病回復者等の人権について 9. 心の病に関して 10. 人権侵害について 11. 性的マイノリティ等の人権について 12. 職業や雇用をめぐる人権問題について 13. 様々な人権問題について 14. 人権に関する相談について 15. まとめ			
教科書 大阪府人権白書「ゆまにてなにわ」			
授業の形態 講義 ／方法 教科書を中心に講義をおこなう。			
評価方法 筆記試験（90%）、提出物と授業態度（10%）を総合して判断する。			
その他の事項			

授業科目名	情報技術	講師名	永野 千恵美
実施年次 ／時期	1 年次 通年	時間数	60 時間
概要			
Word・Excel 機能の習得、園だよりやクラス表など仕事上必要な文書や集計表などへの展開・使用方法を学びます。			
目標			
社会生活で不可欠な PC 操作の基礎知識及び技術を身に付け、仕事に役立てる技法を習得する 情報技術を身に付け、様々な文書、表作成、計算式に対応できる技量を身に付ける			
内容			
1. ガイダンスとパソコンの基本操作 ネットワークやデータの取扱		16. 前期復習、確認練習問題	
2. タイピング、文字入力、文章入力 (Word)		17. 簡単なイラストの作成	
3. タイピング、ビジネス文書の作成練習 (Word)		18. おたよりなど案内文作成 1 (Word)	
4. タイピング、段落書式など、文書校正 (Word)		19. おたよりなど案内文作成 2 (Word)	
5. タイピング、表作成 (Word)		20. おたよりなど案内文作成 3 (表入り Word)	
6. タイピング、図形などオブジェクトの 取り扱い (Word)		21. おたよりなど案内文作成 (タブ設定 Word)	
7. タイピング、文書作成まとめ (Word)		22. 複雑なレイアウトのおたよりや案内文作成 (Word)	
8. タイピング、データ入力 (Excel)		23. クラス名簿の作成 1 (Excel)	
9. タイピング、数式、オート SUM 関係 (Excel)		24. クラス名簿の作成 2 グラフ展開 (Excel)	
10. タイピング、表の体裁、絶対参照 (Excel)		25. クリスマスカード・年賀状作成 (Word)	
11. タイピング、その他の関数 (Excel)		26. 児童台帳の作成、データベース (Excel)	
12. タイピング、グラフ作成 (Excel)		27. 児童台帳編集、関数応用、グラフ展開 (Excel)	
13. タイピング、データベース (Excel)		28. Word・Excel 総復習	
14. 前期総復習		29. 入力速度試験、試験範囲解説	
15. 前期まとめ		30. まとめ	
教科書			
保育者のためのパソコン講座 (萌文書林)			
30 時間でマスター Word & Excel 2016 (実教出版)			
授業の形態 演習			
／方法 ／コンピュータを使用し実技演習を行う。			
評価方法			
試験 80%、成長度、提出物、授業態度など総合して 20%の評価とする。			
その他の事項			

授業科目名	基礎教養講座	講師名	木下孝一・小川夕也・吉川美和子
実施年次 ／時期	2年次 通年	時間数	60 時間
概要			
社会生活を営む上で必要となる知識および福祉従事者として求められる資質は多様であり、一朝一夕で身につくものではありません。本授業では今後社会で求められる基礎的な教養を学び、一社会人としてふさわしい保育士の育成を図ります。			
目標			
1. 専門学生として求められる基礎的な文章構成・計算などができる 2. 社会人として求められる接遇・マナーや正しい言葉遣いができる			
内容			
1. 実力確認テスト 2. 福祉に関する漢字の読み書き 3. 福祉に関する語句の理解 4. 一般教養（ことわざ・四字熟語） 5. 一般教養（文章題：現代国語） 6. 一般教養（敬語） 7. 一般教養（子どもの権利条約） 8. 中間振り返り 9. 一般教養（小論文） 10. 自己PR 11. 履歴書の書き方 12. 正しい身だしなみ、挨拶の仕方 13. 面接練習（グループ1） 14. 面接練習（グループ2） 15. まとめ 16. 一般教養（四則計算：基礎） 17. 一般教養（四則計算：応用） 18. 一般教養（文章題：時間・速度・距離） 19. 一般教養（文章題：割合） 20. 一般教養（日本の地理：都道府県） 21. 一般教養（日本の地理：特産品） 22. 一般教養（世界の地理） 23. 中間振り返り 24. 障害者の人権 25. さまざまな人権 26. 個人情報の取り扱いとSNS 27. 正しい掃除の仕方 28. 掃除の実践練習（グループ1） 29. 掃除の実践練習（グループ2） 30. まとめ			
教科書			
テキストは使用しません。随時プリントを配布します。			
授業の形態 演習			
／方法 ／プリントを用いた学習に加え、就職試験、就職に向けての実践演習を行います。			
評価方法 筆記試験 50%、授業参加度（授業態度等）50%で総合的に評価します。			
その他の事項			

授業科目名	英語	講師名	白濱 尚美
実施年次 ／時期	1 年次 通年	時間数	60 時間
概要 英語での基本的③な挨拶・自己紹介・英語での Q&A（5 W1H）を学ぶ。基礎英単語の復習。ABC カードを作成し、Phonics 教授法について学ぶ。テキストを用いて保育士としての英語表現を学ぶ。異文化について学び、保育内容の（人間関係・環境）などの知識とスキルして習得する。			
目標 中学校卒業程度の基礎的な英語能力を確認し実践できる Phonics 教授法をマスターし、英語の正しい発音を指導することができる 外国の文化を理解し、子どもたちに伝えることができる			
内容			
1、オリエンテーション・英語で自己紹介		1 6、後期授業オリエンテーション 前期復習	
2、外国の文化（Easter）について		1 7、ABC カード 最終提出日（授業内）	
3、テキスト Unit 1		1 8、実践的な保育英語（テキスト使用）	
4、テキスト Unit 2		1 9、外国の文化（Halloween）について	
5、Phonics について ABC カードの作成説明		2 0、外国の文化（Halloween）レッスン実践	
6、ABC カード作成開始①		2 1、ABC カード 返却&実践練習	
7、ABC カード作成②		2 2、ABC カード実践試験日	
8、ABC カード作成③		2 3、実践的な保育英語（テキスト使用）	
9、実践的な Kids English について①		2 4、実践的な保育英語（テキスト使用）	
1 0、実践的な Kids English について②		2 5、実勢的な保育英語（テキスト使用）	
1 1、実践的な Kids English について③		2 6、外国の文化(Christmas)について	
1 2、実践的な Kids English について④		2 7、外国の文化（Christmas）レッスン実践	
1 3、実践的な Kids English について⑤		2 8、実践的な保育英語（テキスト使用）	
1 4、実践的な Kids English について⑥		2 9、まとめ	
1 5、ABC カード 中間報告（第 1 次提出日） English song for children(子どもの手遊びうた)実施テスト		3 0、試験	
教科書 土屋 麻衣子著（株）金星堂『Happy English for Children（保育のための基礎英語）』			
授業の形態 講義&演習			
方法 講義は教科書と CD を使用する。 演習は ABC カードを作成・実践したり、ハロウィンやクリスマスの実践レッスンを行う。			
評価方法 出席点・授業態度（30 点）・提出物（40 点）・試験（30 点）で評価			
その他の事項 準備物として、中学生程度の英和辞典（和英辞典）必要。（電子辞書でも可）			

授業科目名	体育講義・体育実技	講師名	相奈良 律
実施年次 ／時期	1 年次 通年	時間数	60 時間
概要 講義と実技を通して、身体運動に関する知識と実践のための方法や技術を身につけることを目的とする。学生自身が身体を動かす楽しさを体験する中で、子どもの発育発達をふまえてのイメージを膨らませ援助・指導に必要な知識や技能を習得する。また、保育者として必要な体力・運動能力の養成を図るために、運動遊びに加え、競技的なスポーツの実践を通して基礎技術の習得、ルールや特性についての理解を深める。			
目標 ・各運動を安全かつ効果的に実施するための基本的な動きと基礎的な知識を理解することができる ・技術の高低や得意不得意、好き嫌いにとらわれず、自分の持っている技術を活かし運動そのものを楽しめる能力を身につけることができる ・学び合いを通して仲間とのコミュニケーション力・協調性を高める			
内容 1. オリエンテーション 幼児体育の理論と現状、幼児の運動遊びの意義 2. 体育の歴史と文化、体育・遊びの概念 3. オリンピック・パラリンピック 4. 体力とは何か 5. 運動指導の留意点と安全への配慮 6. 熱中症、KYT 7. 子どもの遊び場づくり 8. コミュニケーションワーク① (アイスブレイキング) 9. コミュニケーションワーク② (集団ゲーム) 10. 「走」運動① 11. 「走」運動②いろいろな鬼遊び 12. 「投」運動① 13. 「投」運動②ドッジビー 14. サーキットあそび 15. ニュースポーツ①ヘルスパレー 16. 長縄とび、短縄とびの理論と実践① 17. 長縄とび、短縄とびの理論と実践② 18. 器械運動① (マット運動の基本) 19. 器械運動② (とび箱の基本) 20. 器械運動③ (鉄棒運動の基本) 21. 身近な素材を使った運動 (新聞紙) 22. 用具を使った運動① (ボール) 23. 用具を使った運動② (ボール) 24. 用具を使った運動③ (フープ) 25. 用具を使った運動④ (グループ創作) 26. ニュースポーツ②インディアカ 27. 模擬保育指導案作成 28. 模擬保育実践①・ふりかえり 29. 模擬保育実践②・ふりかえり 30. まとめ			
教科書	使用しない 必要に応じて適宜、資料を配布する		
授業の形態 ／方法	講義・演習 ／講義は教室、実技はアリーナを主に使用する 毎時、講義ノートに感想や気づきを記録する		
評価方法	講義・・・出席・受講態度 40%、筆記試験 60% 演習・・・出席・受講態度 60%、実技試験 40%		
その他の事項			

授業科目名	保育原理	講師名	木下孝一
実施年次 ／時期	1 年次 前期	時間数	30 時間
概要 子どもを取り巻く現状を知り、乳幼児期の特性を理解した上で、保育の意義や目的を理解し、保育の内容と方法を学ぶ。また、保育の歴史的変遷を理解し、保育における現状や課題について理解を深める。			
目標 1. 保育の意義と目的を理解し、保育者としての基礎的な知識や技術を身に付けることができる 2. 幼稚園教育要領・保育所保育指針に基づく、保育内容や方法について理解できる 3. 保育に関する法令及び制度を理解できる 4. 保育の思想と歴史的変遷について理解できる 5. 子どもを取り巻く環境の変化を理解し、保育の世界における現状や課題について理解できる			
内容 1. 「保育」とは何か① 保育の意義と意味 2. 「保育」とは何か② 保育の対象と保育の基本 3. 保育の基盤としての子ども観 4. 保育における「子ども理解」① 子どもをみるということ 5. 保育における「子ども理解」② 子どもの行為の意味を知る 6. 保育の歴史 7. 保育の基本と保育内容・方法① 環境を通して行う教育 8. 保育の基本と保育内容・方法② 幼児期にふさわしい生活の展開 9. 保育の基本と保育内容・方法③ 遊びを通しての総合的な指導 10. 保育の計画と評価① 保育計画の実際 11. 保育の計画と評価② 記録と評価 12. 保育における健康・安全の原理 13. 保育者の専門性 14. 保育の現状と課題 15. まとめ			
教科書 『新しい保育講座① 保育原理』渡邊英則・高嶋景子・大豆生田啓友・三谷大紀 編（ミネルヴァ書房） 『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原文>』文部科学省 厚生労働省 内閣府（チャイルド本社）			
授業の形態 ／方法	講義 ／教科書を使用し、レジュメや資料を配布する。		
評価方法	筆記試験 50%、授業参加度（提出物、授業態度など）50%で総合的に評価する。		
その他の事項	幼稚園教諭として4年以上の実務経験のある教員が講義を行う。		

授業科目名	教育原理	講師名	木下孝一
実施年次 ／時期	1 年次 後期	時間数	30 時間
概要 教育原理は、教育の本質や目的、内容や方法などについて、基本的な知見を蓄えることが期待される科目である。本授業では、教育の研究や実践に不可欠だと考えられる概念や議論を、出来るだけ分かりやすく紹介・解説し、教育に関する歴史や思想にふれながら基本的な考え方について理解を深めることを目的とする。また、「教育とは何か」という問いかけに対して、幼稚園・保育所の歴史を通して、今後教育はどうあるべきかを問い続ける姿勢を身に付ける。			
目標 1. 教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関わりについて理解できる 2. 教育思想と歴史的変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について理解できる 3. 教育の制度について理解できる 4. 教育実践の様々な取り組みについて理解できる 5. 生涯学習社会における教育の現状と課題について理解できる			
内容 1. オリエンテーション 教育とは 2. 教育の意義と目的 3. 教育と児童福祉 4. 教育と地域社会 5. 教育制度の基本 6. 教育の思想と歴史的変遷① 諸外国の教育の歴史 7. 教育の思想と歴史的変遷② 日本の教育思想・歴史 8. 教育の思想と歴史的変遷③ 近代教育の歴史 9. 子ども観と教育観の変遷 10. 教育行政および学校経営の基礎 11. 保育・教育実践の基礎理論 12. 教育実践の多様な取り組み 13. 生涯学習社会と教育 14. 現代の教育課題 15. まとめ			
教科書 『いまがわかる教育原理』西本望 編（みらい）			
授業の形態 講義 ／方法 教科書を使用し、レジュメや資料を配布する。			
評価方法 筆記試験 50%、授業参加度（提出物、授業態度など）50%で総合的に評価する。			
その他の事項 幼稚園教諭として4年以上の実務経験のある教員が講義を行う。			

授業科目名	子ども家庭福祉	講師名	北村博文
実施年次 ／時期	1 年次 後期	時間数	30 時間
概要 こども家庭福祉とは、全ての子どもに適切な家庭環境を保障することで、子どもと家庭を護るための法律・制度・施設・機関等の社会的支援の状況を知り、他の社会資源と連携して子どもの自立を支援することが保育者の大きな役割である。そのために、こども家庭福祉に関する基礎的な知識を身につける。			
目標			
1. 子ども家庭福祉の法体系の理解ができる			
2. 社会的養護を必要とする子どもへの福祉施策の理解ができる			
3. 少子化と地域子育て支援の理解ができる			
内容			
1. 現代社会と子ども家庭福祉			
2. 子どもの人権			
3. 日本における子どもの権利の動向			
4. 子ども家庭福祉の成立と展開			
5. 日本の子ども家庭福祉の歩み			
6. 子ども家庭福祉法の体系			
7. 子ども家庭福祉の機関と施設			
8. 子育て支援・次世代育成支援と保育施策			
9. 母子保健施策とひとり親家庭への福祉施策			
1 0. 子ども虐待と DV 問題の防止施策			
1 1. 社会的養護を必要とする子どもへの福祉施策			
1 2. 障害のある子どもへの福祉施策			
1 3. 心理治療の必要性や非行問題を抱える子どもへの支援			
1 4. 子ども家庭福祉の専門職と連携			
1 5. まとめ			
教科書	「子ども家庭福祉」喜多一憲 監修・堀場純矢 編集 (株)みらい 発行		
授業の形態 ／方法	講義 ／教科書を使用する。		
評価方法	筆記試験 9 0 %、小テストと授業参加度（態度など） 1 0 %で総合的に評価する。		
その他の事項			

授業科目名	社会福祉	講師名	原 悦子
実施年次 ／時期	1 年次 前期	時間数	30 時間
概要 本科目では、現代の社会福祉に至るまでに辿ってきた歴史的変遷を通して、社会福祉の根幹をなす人権や生存権などの概念や、社会福祉法や老人福祉法といった現代の法制度、児童相談所や社会福祉法人などの社会福祉に関わる団体や機関などの現代の社会福祉の仕組みや現状について理解する。また、ソーシャルワークの定義や原則、福祉専門職として身につけることが望ましい傾聴や受容といった技術について理解する。			
目標 1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷について理解することができる 2. 社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について理解することができる 3. 社会福祉の制度や実施体系等について理解することができる 4. 社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解することができる 5. 社会福祉の動向と課題について理解することができる			
内容 1. 社会福祉の理念と概念 2. 子どもの家庭支援と社会福祉 3. 欧米の社会福祉の歴史的変遷と現状 4. 日本の社会福祉の歴史的変遷 5. 社会福祉の法制度 6. 社会福祉の実施機関と施設 7. 社会福祉のサービス提供主体と在宅福祉・地域福祉の推進 8. 共生社会の実現と障害者施策 9. 社会福祉専門職 10. ソーシャルワークの定義 11. ソーシャルワークの過程 12. ソーシャルワークの方法と技術 13. 社会福祉における利用者保護にかかわる仕組み 14. 社会保障制度 15. まとめ			
教科書	子どもと社会の未来を拓く『社会福祉』（青鞥社）		
授業の形態	講義		
／方法	／教科書を中心とし、必要に応じて資料などを使用。		
評価方法	筆記試験 50%、授業時に行うレポート・課題への対応・発表業況など 50%		
その他の事項	社会福祉士として5年以上の実務経験のある教員が講義を行う。		

授業科目名	子ども家庭支援論	講師名	吉川 美和子
実施年次 ／時期	1 年次 前期	時間数	30 時間
概要 家庭とは何か、その形態・意義・機能を考察する。 それらを取り巻く社会状況が大きく変化し、家族も変革を求められている現状を認識する。 それに伴う家族への様々な支援のニーズとその対応が急務となっていることを把握する。			
目標 1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的について理解できる 2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解できる 3. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援展開と子ども家庭支援の現状と課題について理解できる			
内容 1. オリエンテーション 子ども家庭支援の意義と必要性 2. 少子化社会の現状 3. 子ども家庭支援の目的と機能 4. 地域の子育て家庭への支援 5. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援 6. 子供の育ちの喜びの共有 7. 家庭の状況に応じた支援 8. 保育士に求められる基本的態度 9. 支援の計画と環境の構成 10. 地域の資源の活用と自治体・関係機関などとの連携・協力 11. 保育士による子育て支援 12. 保育環境を活用した子育て支援 13. 送迎時の子育て支援 14. 様々な伝達手段を活用した子育て支援 15. まとめ			
教科書	「子どもの家庭支援・子育て支援入門」 才村純 芝野松次郎 新川泰弘 編著 ミネルヴァ書房		
授業の形態 ／方法	講義演習 教科書・配布プリントを中心に講師による解説・概説を行う		
評価方法	筆記試験 50%、授業の参加度 50%で総合的に評価します。		
その他の事項	保育士として5年以上の実務経験のある教員が講義を行う。		

授業科目名	社会的養護 I	講師名	原 悦子
実施年次 ／時期	1 年次 後期	時間数	30 時間
概要 本科目では、社会的養護の理念や概要、法体系や制度などを理解する。児童虐待や子どもの問題の深刻化・顕在化に伴い、児童福祉施設や里親など社会的養護のもとで生活する子どもは増えている。保育士としてこれらの現状を学び、社会的養護の基本的な内容について理解する。			
目標 1. 社会的養護の意義と変遷について理解することができる 2. 社会的養護の養育・保護・治療について理解することができる 3. 社会的養護の制度と法体系について理解することができる 4. 社会的養護の施設養護と家庭養護について理解することができる 5. 社会的養護の現状と課題について理解することができる			
内容 1. 社会的養護の理念と概要 2. 社会的養護の歴史的変遷 3. 子どもの人権擁護と社会的養護 4. 社会的養護の基本原則 5. 社会的養護における保育士等の倫理と責務 6. 社会的養護の制度と法体系 7. 社会的養護のしくみと実施体系 8. 社会的養護とファミリーソーシャルワーク 9. 社会的養護の対象と支援のあり方 10. 家庭養護と施設養護 11. 社会的養護にかかわる専門職 12. 社会的養護に関する社会的状況 13. 施設等の運営管理の現状と課題 14. 社会的養護の現状と課題 15. まとめ			
教科書 『新 基本保育シリーズ6 社会的養護 I』（中央法規）			
授業の形態 講義 ／方法 教科書を中心とし、必要に応じて資料などを使用する。			
評価方法 筆記試験 50%、授業時に行うレポート・課題への対応・発表業況など 50%			
その他の事項 社会福祉士として5年以上の実務経験のある教員が講義を行う。			

授業科目名	保育者論	講師名	木下孝一
実施年次 ／時期	2年次 後期	時間数	30 時間
概要 本授業では、保育者の倫理観に裏付けされた役割や、制度的な位置づけ、歴史的背景などについて学び、子どもの保育と保護者支援を行う保育者の専門性について理解を深めることを目的とする。また、「成長し続ける保育者」をキーワードとし、各自が理想とする保育者像に近づくために、何が必要か、を問い続ける姿勢を大切にしていきたい。			
目標 1. 保育者の役割と倫理について理解できる 2. 保育者の制度的な位置づけを理解できる 3. 保育者の専門性について理解できる 4. 保育者の連携・協働について理解できる 5. 保育者の資質向上とキャリア形成について理解できる			
内容 1. 保育者とは① 保育者の一日 2. 保育者とは② 保育者の制度的位置づけ 3. 保育職とは① 保育者としての資質 4. 保育職とは② 保育者としての倫理 5. 現代の保育にまつわる問題① 子どもを取り巻く環境の変化と現状 6. 現代の保育にまつわる問題② 配慮を要する子どもへの理解と対応 7. 保育者の役割① 保育者の職務内容 8. 保育者の役割② 初任者・中堅者・管理職の役割 9. 保育者の専門性① 保育者に求められる資質・能力とは 10. 保育者の専門性② 保育の実践の向上 11. 保育者の専門性③ 保育の安全管理と危機管理 12. 保育者の連携・協働① 保護者・家庭とのかかわり 13. 保育者の連携・協働② 関連機関や地域との連携 14. 保育者の資質向上とキャリア形成 15. まとめ			
教科書	『保育者論 ー子どものかたわらに』小川圭子 編（みらい）		
授業の形態 ／方法	講義 ／教科書を使用し、レジュメや資料を配布する。		
評価方法	筆記試験 50%、授業参加度（提出物、授業態度など）50%で総合的に評価する。		
その他の事項	幼稚園教諭として4年以上の実務経験のある教員が講義を行う。		

授業科目名	保育の心理学	講師名	野出 榮一
実施年次 ／時期	1 年次 後期	時間数	30 時間
概要			
保育士は、子どもと 1 対 1 で向き合う直接的な保育活動や保育士が前に立って関わる集団に向けての活動、環境構成などといった間接的な促しなどのさまざまな活動を担います。その活動の根底には、子どもの発達のプロセスや特性を理解し、実践の場で活用するスキルが求められます。この授業では、主に発達心理学の知見をもとに、子どもと保育の楽しさや難しさに触れていきます。			
目標			
1. 保育実践に関わる発達理論などの心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解できる			
2. 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深められる			
3. 乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解できる			
内容			
1. オリエンテーション			
2. 発達理解の意義と子ども観・保育観			
3. 遺伝・環境と生涯発達			
4. 発達段階			
5. 胎児期から乳児期の発達			
6. 幼児期の発達			
7. 子どもの発達と環境			
8. 感情の発達と自我			
9. 身体的機能と運動機能の発達			
10. 知覚と認知の発達			
11. 言葉の発達と社会性			
12. 乳幼児期の学びにかかわる理論			
13. 乳幼児期の学びの過程と特性			
14. 乳幼児期の学びを支える保育・教育			
15. まとめ			
教科書	プリントを配布するほか、以下の教科書を用いる シリーズ知のゆりかご 保育の心理学（青木紀久代編、みらい 2019） 保育に役立つ！子どもの発達がわかる本（金子龍太郎・吾田富士子、ナツメ社 2017）		
授業の形態	講義・演習		
／方法	／講義はプリントを使用。演習はグループワークを実施。		
評価方法	平常点(40 点)・期末試験(60%)		
その他の事項			

授業科目名	子ども家庭支援の心理学	講師名	野出 榮一
実施年次 ／時期	2年次 前期	時間数	30 時間
概要 子どもおよび子育て家庭の支援について理解する科目です。子どもの支援に関しては、生涯発達に関する心理学の基礎知識や子どもの精神保健について学びます。子育て家庭の支援については、家族・家庭の意義・機能を理解した上で、子育て家庭をめぐる社会的状況と課題に触れます。それぞれの理解や支援を通して、子どもの発達における初期経験の重要性や、最も子どもに近い環境である家族・家庭への支援の必要性を検討します。			
目標 1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解することができる 2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得できる 3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について検討できる 4. 子どもの精神保健とその課題について検討できる			
内容 1. オリエンテーション 2. 乳幼児から学童期前期にかけての発達 3. 学童期後期から青年期にかけての発達 4. 成人期・老年期における発達 5. 家族・家庭の意義と機能 6. 親子関係・家族関係の理解 7. 子育ての経験と親としての育ち 8. 子育てを取り巻く社会的状況 9. ライフコースと仕事・子育て 10. 多様な家族とその理解 11. 特別な配慮を要する家庭 12. 子どもの生活・生育環境とその影響 13. 子どものこころの健康に関わる問題 14. 保育士と子ども家庭支援 15. まとめ			
教科書 プリントを配布します シリーズ保育と現代社会 保育と家庭支援(編集:上田衛 みらい 2018) シリーズ知のゆりかご 子ども家庭支援の心理学(青木紀久代編 みらい 2020)などを勧めます			
授業の形態 講義・演習 ／方法 講義はプリントを用います。演習はグループワークなどを行います			
評価方法 平常点(40%)・期末試験(60%)			
その他の事項			

授業科目名	子どもの理解と援助	講師名	野出 榮一
実施年次 ／時期	1年次 後期	時間数	30 時間
概要 子どもは、保育者や友達との関わりや遊びを通して、さまざまな葛藤を経験し、時にはつまづき傷つきながらも、多くを学び生きる力を身につけていきます。保育士は、子どもひとりひとりの発達の課題に合わせ、特別な配慮が必要かどうかを検討しながら、適切な援助や支援を行っています。 この授業では、子どもを理解するための基本的な考え方や具体的な方法を理解し、保育士の援助や態度の基本について検討します。			
目標 1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解できる 2. 子どもの体験や学びの過程において子どもを理解する上での基本的な考え方を理解できる 3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解できる 4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解できる			
内容 1. オリエンテーション 2. 養護と教育の一体的展開における子ども理解 3. 子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり 4. 子どもの生活や遊び 5. 保育の人的環境としての保育者と子どもの発達 6. 子ども相互の関わりと関係づくり 7. 集団における経験と育ち 8. 保育の環境の理解と構成 9. 環境の変化や移行 10. 子どもの観察・記録とその評価 11. 職員や保護者との連携 12. 発達の課題に応じた援助と関わり 13. 特別な配慮を要する子どもの理解と援助 14. 発達の連続性と就学支援 15. まとめ			
教科書 プリントを配布する 新基本保育シリーズ 10 子どもの理解と援助(監修:児童育成協会 中央法規 2019)に準拠する			
授業の形態 講義・演習 ／方法 ／講義はプリントを用います。演習はグループワークなどを行います			
評価方法 平常点(40%)、期末試験(60%)			
その他の事項			

授業科目名	子どもの保健	講師名	飯盛 順子
実施年次 ／時期	1 年次 前期	時間数	30 時間
概要 子どもの発育・発達を円滑に促す保健活動を学び、子どもが健やかに発育・発達できる支援の方法を修得する。更には疾病が子どもに与える影響を理解した上で、その影響が最小となる為の援助・施策が理解できる。			
目標 1. 子どもの心身の健康に関わる保健活動の意義を理解し、子どもの健康の現状と施策が理解できる 2. 子どもの発育・発達に関する知識を修得し、健康状態や健康問題の判断ができ、健やかに育つための支援の方法が理解できる 3. 子どもの疾病とその予防法及び多職種間の連携・協働の下での適切な対応方法が理解できる			
内容 1. 子どもの健康と保健活動の意義 1 子どもの健康 2. 子どもの健康と保健活動の意義 2 子どもの健康、生命の誕生（DVD 視聴） 3. 子どもの健康と保健活動の意義 3 子どもに係る保健活動の目的と内容 4. 子どもの健康に関する現状と課題 1 子どもの健康指標 5. 子どもの健康に関する現状と課題 2 母子保健対策にみる現状と課題 6. 子どもの健康に関する現状と課題 3 子どもを取り巻く環境 7. 子どもの発育発達と保健 1 子どもの身体の発育と保健 8. 子どもの発育発達と保健 2 子どもの心身の発達と保健 9. 子どもの健康状態の把握と対応 1 子どもの健康状態の把握と評価 10. 子どもの健康状態の把握と対応 2 健康診断（健康診査） 子どもの疾病と対応 1 子どもが病気にかかりやすい発達上の特徴 11. 子どもの疾病と対応 2 子どもに多くみられる感染症の特徴と対応 12. 子どもの疾病と対応 3 アレルギー疾患の理解と対応 13. 子どもの疾病と対応 4 乳幼児期の基本的な生活習慣形成の意義と健康問題 14. 復習とまとめ 15. 復習とまとめ			
教科書 「図解 子どもの保健 I 第 2 版」服部右子・大森正英 編（株式会社みらい）			
授業の形態 講義 ／方法 教科書を中心に使用、必要により厚労省発出の各種ガイドラインを使用			
評価方法 平常点 10 点（私語を慎み、教科書を忘れない等、積極的な授業態度） 定期試験 70 点 その他 20 点（小テスト・レポート等必要に応じて実施）			
その他の事項 看護師として 5 年以上の実務経験のある教員が講義を行う			

授業科目名	子どもの食と栄養	講師名	大杉 加菜子
実施年次 ／時期	2年次 前期	時間数	60 時間
概要 本科目では、栄養や食に関する基礎知識を学び、子どもの健康と食生活のつながり、子どもの発育・発達期別栄養の特徴を理解する。また家庭や児童福祉施設における食事と栄養の意義という視点を持ち、食育や特別な配慮を要する子どもの食と栄養について学習する。			
目標			
1. 健康的な食生活の意義や栄養に関する基本的知識を理解できる			
2. 子どもの発育・発達期別栄養の特徴を理解できる			
3. 食育の基本と内容を理解できる			
4. 家庭や児童福祉施設における食事と栄養の現状と課題について理解できる			
5. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解できる			
内容			
1. 栄養学とは		16. 妊娠期の栄養	
2. 炭水化物		17. 授乳期の栄養	
3. 脂質		18. 新生児期の栄養	
4. たんぱく質		19. 乳児期の栄養	
5. ビタミン（脂溶性）		20. 離乳期の栄養	
6. ビタミン（水溶性）		21. 幼児期の栄養	
7. 無機質（マクロ）		22. 学童期の栄養	
8. 無機質（ミクロ）		23. 食育の基本	
9. 水について		24. 食育の計画・活用	
10. 食事摂取基準		25. 食物アレルギーとは	
11. 栄養生理（消化のしくみ）		26. 食物アレルギーへの対応	
12. 栄養生理（吸収のしくみ）		27. 児童福祉施設給食	
13. 栄養生理（食欲と味覚）		28. 和食	
14. 献立作成・衛生管理		29. 行事食・郷土料理	
15. まとめ		30. まとめ	
教科書 「子育て・子育てを支援する 子どもの食と栄養」 堤ちはる、土井正子 編著（萌文書林）			
授業の形態 演習			
／方法 ／基礎を学んだのち、模擬事例等で展開する			
評価方法 筆記試験60％、平常点40％で総合的に判断する			
その他の事項			

授業科目名	カウンセリング	講師名	野出 榮一
実施年次 ／時期	2年次 前期	時間数	30 時間
概要 カウンセリングの本来の働きはカウンセリングのプロセスに潜むより深い意味の発見にある。その第1は、「自分と付き合えるようになること」である。第2に、「人の違いを受け止められるようになること」違いは違いで会って間違いではない、「自他の区別」を理解できること。第3に、「ヒューマンエラーを認め、赦せるようになること」人間は不完全であることを認めることができることである。 この授業では、カウンセリングの理論や技法を学びながら、保育者として「カウンセリングマインド」を基盤とした日常的な課題解決のスキルを身に付けていきます。			
目標 1. カウンセリングの理論やスキルを学び、その実践をすることによって、課題の予防や解決についての効果的な方法やスキルを身につけられる。 2. グループ・ワークでのふれあい経験やカウンセリングスキルのトレーニングを通して、自己や他者について理解できる。			
内容 1. オリエンテーション（カウンセリングとは・カウンセリングを学ぶ） 2. カウンセリングの基礎となる人間観（1）人間信頼論 3. カウンセリングの基礎となる人間観（2）人間性心理学の人間観 4. カウンセリングの基礎となる心理学理論（1）人間の行動とことば 5. カウンセリングの基礎となる心理学理論（2）カウンセリングと類似の支援との違い 6. 代表的なカウンセリング理論・技法（1）精神分析的アプローチ 7. 代表的なカウンセリング理論・技法（2）来談者中心療法 8. 代表的なカウンセリング理論・技法（3）行動療法 9. 代表的なカウンセリング理論・技法（4）認知行動療法 10. 代表的なカウンセリング理論・技法（5）家族カウンセリング 11. 代表的なカウンセリング理論・技法（6）グループ・アプローチ 12. 代表的なカウンセリング理論・技法（7）総合的アプローチ 13. カウンセラーの養成・訓練・資格 14. 心理専門職の職務と倫理 15. まとめ			
教科書	プリントを配布するほか、以下の教科書を用いる 新・カウンセリングの話（平木典子著 朝日新聞出版 2020）		
授業の形態	講義・演習		
／方法	／講義はプリントを用いる。演習はグループ・ワークなどを行う。		
評価方法	平常点(40%)・期末試験(60%)		
その他の事項			

授業科目名	保育の計画と評価	講師名	木下孝一
実施年次 ／時期	2年次 前期	時間数	30 時間
概要 本授業は、乳幼児期の保育を実践する上で、必要不可欠となる計画についての基礎となる理論を学び、保育の計画の作成を通して、保育を見通す力を養うことを目的とする。また、保育計画の意義について理解を深め、「何のため」「誰のため」の計画であるかを学ぶ。			
目標 1. 保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と評価について理解できる 2. 保育課程の編成と指導計画の作成について具体的に理解することができる 3. 計画、実践、省察・評価、改善の過程について、その全体構造を捉え理解できる			
内容 1. オリエンテーション 授業のねらいと概要 2. 保育における計画の意義 3. 日本におけるカリキュラムの基礎理論 4. 子ども理解に基づく保育の循環 5. 保育所保育指針、幼稚園教育要領の性格と位置づけ 6. 教育課程の編成の基本原理と方法 7. 全体的な計画の作成の基本原理と方法 8. 指導計画の基本① 幼稚園 9. 指導計画の基本② 保育所・認定こども園 10. 保育の評価 11. 指導計画の実際① 作成の基本 12. 指導計画の実際② 0歳児の指導計画 13. 指導計画の実際③ 1歳以上3歳未満児の指導計画 14. 指導計画の実際④ 3歳以上児の指導計画 15. まとめ			
教科書 『新基本保育シリーズ⑬ 教育・保育カリキュラム論』千葉武夫 那須信樹 編（中央法規）			
授業の形態 講義			
／方法 教科書を使用し、レジュメや資料を配布する。			
評価方法 筆記試験 50%、授業参加度（提出物、授業態度など）50%で総合的に評価する。			
その他の事項 幼稚園教諭として4年以上の実務経験のある教員が講義を行う。			

授業科目名	保育内容総論	講師名	吉川 美和子
実施年次 ／時期	2年次 後期	時間数	30 時間
概要 幼稚園や保育所における「保育」の全体構造について理解し、各領域の保育内容を総合的にとらえる視点から、乳幼児期の発達過程、園での生活や遊び、保育計画、具体的な援助や指導について保育の流れを概観し、保育実践と結び付けながら学ぶことを目的とする。			
目標 1. 幼稚園教育要領、保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解できる 2. 養護と教育が一体的に展開することを具体的な保育実践につなげて理解できる 3. 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史の変遷等を理解できる 4. 保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程につなげて理解できる 5. 保育の多様な展開について具体的に理解できる			
内容 1. 保育の全体構造と保育内容 2. 保育所保育指針に基づく保育内容の理解① 養護 3. 保育所保育指針に基づく保育内容の理解② 教育 4. 保育内容の歴史の変遷とその社会的背景 5. 子どもの発達や生活に即した保育内容とは 6. 保育内容の展開① 養護と教育が一体的に展開される保育 7. 保育内容の展開② 子どもの主体性を尊重する保育 8. 保育内容の展開③ 環境を通して行う教育 9. 保育内容の展開④ 生活や遊びによる総合的な保育 10. 保育内容の展開⑤ 個と集団の発達をふまえた保育 11. 保育内容の展開⑥ 家庭や地域等の連携をふまえた保育 12. 保育内容の展開⑦ 小学校との連携・接続をふまえた保育 13. 保育の多様な展開① 特別な配慮を要する子どもの保育 14. 保育の多様な展開② 多文化共生の保育 15. まとめ			
教科書	『新基本保育シリーズ⑭ 保育内容総論』石川昭義 松川恵子 編（中央法規）		
授業の形態	演習		
／方法	／教科書や資料を使用し、グループワークやロールプレイングを中心に授業を進める。		
評価方法	筆記試験 50%、授業参加度（提出物、授業態度など）50%で総合的に評価する。		
その他の事項	保育士として5年以上の実務経験のある教員が講義を行う。		

授業科目名	健 康	講師名	吉川 美和子
実施年次 ／時期	1 年次 後期	時間数	30 時間
概要 健康に生きるとはどのようなことを表しているのでしょうか。子どもの心と身体の育ちを 学ぶとともに、豊かな育ちを支える援助のあり方について理解できるようにしていきましょう。			
目標 1. 保育所保育指針における領域「健康」のねらいおよび内容について理解できる 2. 子ども自らが健康的な生活習慣を獲得するために適切な援助や指導ができる			
内容 1. オリエンテーション 2. 健康とは 3. 子どもの身体機能の発達 4. 子どもの心の発達 5. 健康的な生活リズム 6. 子どもの園生活 7. 安全管理と安全教育 8. 健康を願う園行事のあり方 9. 食育とは 10. 健康を守るガイドラインについて 11. 領域としての健康 12. 乳児保育のねらいおよび内容 13. 1 歳以上 3 歳未満児のねらいおよび内容 14. 3 歳以上児保育のねらいおよび内容 15. まとめ			
教科書 新しい保育講座⑦ 保育内容「健康」 川邊貴子 鈴木康弘 編 (ミネルヴァ書房)			
授業の形態 演習 ／方法 ／教科書および配布プリントによる講義およびグループワーク等の演習を行います。			
評価方法 筆記試験 50%、授業の参加度 50%で総合的に評価します。			
その他の事項 保育士として 5 年以上の実務経験のある教員が講義を行う。			

授業科目名	人間関係	講師名	木下孝一
実施年次 ／時期	1 年次 後期	時間数	30 時間
概要 本授業では、現代の乳幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、人とのかかわることの意義や意味を学んだ上で、領域「人間関係」の基礎理論の理解を深めることを目的とする。			
目標 1. 保育所保育指針・幼稚園教育要領における領域「人間関係」のねらいや内容、内容の取扱いについて理解できる 2. 人間関係の発達や自立心・道徳性の発達など子どもを深く理解し、保育実践に応用できる 3. 養育者・保育者など子どもを取り巻く人的環境における関係性について理解を深めることができる			
内容 1. 保育・幼児教育の基本 2. 乳幼児と人間関係における現代的課題 3. 乳児における人と関わる力の発達と保育 4. 1 歳以上 3 歳未満児における人と関わる力の発達と保育 5. 3 歳以上児における人と関わる力の発達と保育 6. 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」における領域「人間関係」 7. 遊びのなかで育つ人間関係① 人とのかかわりと遊び 8. 遊びのなかで育つ人間関係② 子どもの遊び体験 9. 人とのかかわりを育てる保育の実践① 保育現場での実際 10. 人とのかかわりを育てる保育の実践② 遊びを通した総合的指導 11. 家庭や地域との連携① 子育て支援と家庭の連携 12. 家庭や地域との連携② 幼保小の接続・連携 13. 多様な配慮と保育構想 14. 子どもの人間関係と社会性・道徳性 15. まとめ			
教科書 『子どもの姿からはじめる 領域・人間関係』三宅茂夫（みらい）			
授業の形態 演習			
／方法 ／教科書や資料を使用し、グループワークやロールプレイングを中心に授業を進める。			
評価方法 筆記試験 50%、授業参加度（提出物、授業態度など）50%で総合的に評価する。			
その他の事項 幼稚園教諭として 4 年以上の実務経験のある教員が講義を行う。			

授業科目名	環境	講師名	板谷雅子
実施年次 ／時期	1 年次 後期	時間数	30 時間
概要 「保育の現場では、様々な環境が相互に関連し合い、子どもの豊かな育ちを支えている。」その環境を通して行われる保育とはどのようなものか、この授業で学ぶ			
目標 1. 保育所保育指針における領域「環境」のねらいおよび内容について理解できる 2. 子どもの感性を育むための「環境」について、実践事例をもとにしながら理解することができる 3. 保育現場における環境構成の在り方を実践することができる			
内容 1. オリエンテーション 2. 領域「環境」とは 3. 幼児期において育みたい資質能力 4. 環境を通して行う教育の展開と、保育者の役割 5. 様々な環境との関わり① 6. 様々な環境との関わり② 8. 幼児の遊びの環境 9. 園の環境をデザインする 10. 園の環境をデザインする 11. 園の環境をデザインする 12. 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 13. 小学校教育との接続のポイント 14. 子どもの育ちをつなぐ 15. まとめ			
教科書	保育内容 環境【乳幼児教育・保育シリーズ】 神長美津子・堀越紀香・佐々木晃 編著 光生館		
授業の形態	演習		
／方法	／教科書および配布プリントによる講義およびグループワーク等の演習を行います。		
評価方法	筆記試験 50%、提出物 30%、授業の参加度 20%で総合的に評価します。		
その他の事項	幼稚園教諭として5年以上の実務経験のある教員が講義を行う。		

授業科目名	言 葉	講師名	小川夕也
実施年次 ／時期	1 年次 後期	時間数	30 時間
概要 言葉は人間が持つ特有のコミュニケーション手段です。乳幼児期の子どもたちがどのように言葉を獲得し、社会とのつながりを築いていくのか学んでいきましょう。			
目標 1. 保育所保育指針における領域「言葉」のねらいおよび内容について理解できる 2. 乳幼児の言葉の発達過程を知り、保育者にとって望ましい援助のあり方について理解できる			
内容 1. オリエンテーション 2. 人間と言葉 3. 乳幼児期の言葉の獲得 4. 言葉の豊かさ 5. 領域「言葉」とは 6. 領域「言葉」のねらいと内容 7. 子どもの発達と言葉 8. 前言語期のコミュニケーションと保育 9. 話し言葉の機能と発達 10. 書き言葉の機能と発達 11. 言葉に関する諸問題 12. 子どもとデジタルメディア 13. 言葉を育む保育の構想 14. 現代社会と言葉 15. まとめ			
教科書	『保育学生のための「幼児と言葉」「言葉指導法」』 馬見塚昭久／小倉直子 ミネルヴァ書房		
授業の形態 ／方法	演習 前期「言語表現」で学んだことを踏まえ、領域「言葉」の理解を深めるための演習を行います。		
評価方法	筆記試験 60%、レポート 30%、授業の参加度 10%で総合的に評価します。		
その他の事項	保育士として5年以上の実務経験のある教員が講義を行う。		

授業科目名	表現Ⅰ	講師名	森崎良尚
実施年次 ／時期	1 年次 通年	時間数	60 時間
概要			
保育内容を理解し、子どもの音楽表現遊び・身体表現遊びを展開するために必要な知識や技術を自己発見・自己表現という一つの表現手法の流れに従い、音楽表現領域・身体表現領域・言語表現領域から見出し、保育方法を習得していくことを目的とする。また、子どもの音楽表現・身体表現の指導援助者として、保育の中で取り扱う教材に必要な知識も合わせて習得する。 授業内容や順序は、皆さんの様子や到達状況を見て調整する場合があります。			
目標			
1. 一人で人前に出て笑顔で元気よく話することができる 2. 絵本の読み聞かせ・手遊び・なぞなぞ・ピアノ弾き歌いの基礎を身に着けることができる 3. 模擬設定保育（先生ごっこ）で、保育者や子どもの動きを理解し実践できる			
内容			
1. 100 種類の歩き方による表現遊び 2. 一人で人前に出て表現活動開始 3. 一芸披露と表現力観察 4. 笑顔キープと滑舌 5. 人と目を合わす 良い姿勢 立ち居振る舞い 6. 絵本の持ち方・使い方・読み聞かせ① 7. 手遊び歌の方法と実践① 8. なぞなぞの方法と実践① 9. 模擬設定保育（先生ごっこ）練習 10. 模擬設定保育（先生ごっこ）練習 11. 模擬設定保育（先生ごっこ）発表 12. 絵本の持ち方・使い方・読み聞かせ② 13. 手遊び歌の方法と実践② 14. なぞなぞの方法と実践② 15. まとめ		16. 模擬設定保育(5 歳)音楽表現・身体表現等 17. 模擬設定保育(4 歳)音楽表現・身体表現等 18. 模擬設定保育(3 歳)音楽表現・身体表現等 19. 模擬設定保育(2 歳)音楽表現・身体表現等 20. 模擬設定保育(1 歳)音楽表現・身体表現等 21. 模擬設定保育(0 歳)音楽表現・身体表現等 22. 劇指導のためのエチュード(配役・読み合わせ) 23. 劇指導のためのエチュード(読み合わせ・演技演習) 24. 劇指導のためのエチュード(立ち稽古) 25. 劇指導のためのエチュード(立ち稽古) 26. 劇指導のためのエチュード(通し稽古) 27. 劇指導のためのエチュード(発表・ふりかえり) 28. 保育所実習準備確認 29. 保育所実習準備確認 30. まとめ	
教科書	適宜資料配布		
授業の形態	演習		
／方法	／授業前半：毎回一人で人前に出て、与えられた課題にチャレンジする。 授業後半：グループワークなどで表現活動を行い保育方法を学ぶ。		
評価方法	毎時間の実技試験と期末実技試験。		
その他の事項			

授業科目名	乳児保育Ⅰ	講師名	小川夕也
実施年次 ／時期	1 年次 前期	時間数	30 時間
概要	少子化対策や子育て支援の充実が社会で注目される中、乳児保育のニーズはますます高まりを見せています。本授業では、現場において細やかな対応が求められる乳児の育ちを正しく理解し、一人一人の心に寄り添える保育者の育成を行います。		
目標	1. 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷および役割等について理解できる 2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解できる 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容について理解できる 4. 乳児保育における職員間の連携・協働および保護者や地域との連携について理解できる		
内容	1. オリエンテーション 2. 乳児保育の目的と役割 3. 乳児保育の基本 4. 0・1・2歳児の発達 5. 乳児（0歳児）の保育内容 6. 1歳以上3歳未満児の保育内容 7. 乳児の生活と遊びの基本的事項 8. 乳児の生活の基本 9. 乳児の遊び 10. 乳児保育の環境構成 11. 乳児保育における全体的な計画 12. 乳児保育における子育て支援 13. 乳児保育における連携 14. 一人一人を健やかに育んでいくために 15. まとめ		
教科書	『講義で学ぶ乳児保育』 小山朝子 編著 わかば社		
授業の形態	講義		
／方法	／教科書および配布プリントによる講義を行います。		
評価方法	筆記試験 80%、授業への参加度 20%で総合的に評価します。		
その他の事項	保育士として5年以上の実務経験のある教員が講義を行う。		

授業科目名	乳児保育Ⅱ	講師名	小川夕也
実施年次 ／時期	2年次 前期	時間数	30 時間
概要	少子化対策や子育て支援の充実が社会で注目される中、乳児保育のニーズはますます高まりを見せています。本授業では、現場において細やかな対応が求められる乳児の育ちを正しく理解し、一人一人の心に寄り添える保育者の育成を行います。		
目標	1. 3歳児未満の発育・発達のプロセスや特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方を理解できる。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境構成について理解する。 3. 乳児保育における計画の作成について理解できる。		
内容	1. オリエンテーション 2. 乳児保育の意義 3. 子どもの自主性と自発性 4. 0・1・2歳児の発達と保育者の援助 5. 食事の援助と環境（授乳・離乳食） 6. 食事の援助と環境（食事場面から考える） 7. 排泄の援助と環境 8. 睡眠・休息の援助と環境 9. 着脱に関する援助と環境 10. 清潔に関する援助と環境 11. 乳児保育における健康と安全 12. 乳児保育における計画と評価 13. 乳児保育における子育て支援 14. 乳児保育を支える連携 15. まとめ		
教科書	テキストは使用しません。随時プリント等資料を配布します。		
授業の形態	演習		
／方法	／教科書および配布プリントによる講義および演習を行います。		
評価方法	筆記試験 60%、授業への参加度 40%で総合的に評価します。		
その他の事項	保育士として5年以上の実務経験のある教員が講義を行う。		

授業科目名	子どもの健康と安全	講師名	飯盛 順子
実施年次 ／時期	2 年次 前期	時間数	30 時間
概要 子どもの個人ならびに集団に対して、その健康と安全を守るために必要な基礎知識と基本技術を学ぶ。『子どもの保健』の学びをフィードバックしながら理解を深め応用できるようにする。			
目標			
1. 子どもの健康及び安全に係る保健活動の計画及び評価について理解する			
2. 子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境を考える			
3. 子どもの疾病とその予防及び適切な対応について理解を深める			
4. 救急時の対応や事故防止、安全管理についての方法を身につける			
5. 現代社会における心の健康問題や地域保健活動等について理解する			
内容			
1. <オリエンテーション>保健計画の作成と活用他、記録と自己評価			
2. 子どもの健康状態の観察：観察方法、体温、血圧計、呼吸他			
3. 子どもの健康状態の観察：身体測定の方法とその評価、おんぶの仕方			
4. 養護技術：抱き方、調乳、与え方他			
5. 養護技術：身体の清潔、沐浴、衣服の着脱、おむつ			
6. 看護技術：子どもの病気の特徴、異常症状に気づいたときの対応、吐物や下痢の後始末			
7. 看護技術：冷（温）罨法、冷湿布、薬の飲ませ方、腹部マッサージ、浣腸食事の与え方			
8. 感染症の予防、感染症が発生した時の対応			
9. 配慮をする子どもへの適切な対応 慢性疾患、アレルギー性疾患、乳児、障害のある子ども			
10. 基本的生活習慣の自立と健康教育 子どもの保健と環境、排泄習慣、歯みがき指導を学ぶ他			
11. 日常に起りやすいけがや事故と応急処置、事故防止、安全教育他			
12. 事故発生時の対応：心肺蘇生法、気道内異物除去法			
13. 事故発生時の対応：三角巾、包帯の使い方、患者の運び方他			
14. 集団保育における健康管理 健診、保護者（啓発）支援、スポーツ振興センター、職員の健康管理他			
15. 復習とまとめ			
教科書			
「演習 子どもの保健Ⅱ 第2版」今井七重 編（株式会社みらい）			
授業の形態 講義・デモスト・演習			
／方法 必要により DVD などの視聴覚教材を使用			
評価方法			
平常点	10 点	（私語を慎み、教科書を忘れない等、積極的な授業態度）	
定期試験	70 点		
その他	20 点	（小テスト・レポート等の提出とその内容により評価）	
その他の事項			
看護師として5年以上の実務経験のある教員が講義を行う			

授業科目名	障害児保育	講師名	服部 太志		
実施年次 ／時期	2年次 通年	時間数	60時間		
概要 障がい児保育を支える理念と、障がいの理解と保育における発達の援助を学ぶ。保育課程に基づく指導計画の作成と記録及び評価について理解し、家庭及び関係機関との連携においても、保護者や家族に対する理解と支援方法を学ぶ。また、障がいのある子どもの保育にかかわる現状と課題についても理解する。					
目標 1. 様々な障がいについて理解でき、子ども理解や支援の方法について模索・探究できる。 2. 障がいのある子どもの保育計画・保育実践について理解を深めることができる。 3. 障がいのある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について、理解を深めることができる。 4. 障がい児保育に関わる保健・医療・福祉・教育等の状況と課題を検討できる。					
内容 <table><tr><td>1. 障がいの概要と対象 2. 障がいを体験する 3. 障がい児保育の変容 4. 現在の障がい児保育 5. 障害者支援の基本概念 6. 視覚障がいの理解 7. 聴覚障がいの理解 8. 精神障がいの理解 9. 肢体不自由児の理解 10. 知的障がい児の理解 11. 発達障がい児（ADHD・LD）の理解 12. 発達障がい児（自閉症スペクトラム）の理解 13. 障がい児の特性に応じた対応① 14. 障がい児の特性に応じた対応② 15. まとめ</td><td>16. 障がいのある子どもの発達と環境 17. 統合保育・分離保育のメリット・デメリット 18. 保育所・幼稚園等と専門施設の違い 19. 保育課程に基づく指導計画の作成 20. 個別の支援計画 21. 個別支援計画の取り組みと課題 22. 保護者や家庭に対する支援の必要性 23. 保護者や家庭に対する支援の方法 24. 地域の専門機関との連携の必要性 25. 地域の専門機関との連携の方法 26. 小学校との連携 27. 就学支援の実際 28. 障がいに対する理念の変化 29. 障がい児を取り巻く制度の変化 30. まとめ</td></tr></table>				1. 障がいの概要と対象 2. 障がいを体験する 3. 障がい児保育の変容 4. 現在の障がい児保育 5. 障害者支援の基本概念 6. 視覚障がいの理解 7. 聴覚障がいの理解 8. 精神障がいの理解 9. 肢体不自由児の理解 10. 知的障がい児の理解 11. 発達障がい児（ADHD・LD）の理解 12. 発達障がい児（自閉症スペクトラム）の理解 13. 障がい児の特性に応じた対応① 14. 障がい児の特性に応じた対応② 15. まとめ	16. 障がいのある子どもの発達と環境 17. 統合保育・分離保育のメリット・デメリット 18. 保育所・幼稚園等と専門施設の違い 19. 保育課程に基づく指導計画の作成 20. 個別の支援計画 21. 個別支援計画の取り組みと課題 22. 保護者や家庭に対する支援の必要性 23. 保護者や家庭に対する支援の方法 24. 地域の専門機関との連携の必要性 25. 地域の専門機関との連携の方法 26. 小学校との連携 27. 就学支援の実際 28. 障がいに対する理念の変化 29. 障がい児を取り巻く制度の変化 30. まとめ
1. 障がいの概要と対象 2. 障がいを体験する 3. 障がい児保育の変容 4. 現在の障がい児保育 5. 障害者支援の基本概念 6. 視覚障がいの理解 7. 聴覚障がいの理解 8. 精神障がいの理解 9. 肢体不自由児の理解 10. 知的障がい児の理解 11. 発達障がい児（ADHD・LD）の理解 12. 発達障がい児（自閉症スペクトラム）の理解 13. 障がい児の特性に応じた対応① 14. 障がい児の特性に応じた対応② 15. まとめ	16. 障がいのある子どもの発達と環境 17. 統合保育・分離保育のメリット・デメリット 18. 保育所・幼稚園等と専門施設の違い 19. 保育課程に基づく指導計画の作成 20. 個別の支援計画 21. 個別支援計画の取り組みと課題 22. 保護者や家庭に対する支援の必要性 23. 保護者や家庭に対する支援の方法 24. 地域の専門機関との連携の必要性 25. 地域の専門機関との連携の方法 26. 小学校との連携 27. 就学支援の実際 28. 障がいに対する理念の変化 29. 障がい児を取り巻く制度の変化 30. まとめ				
教科書 「障害児保育」中央法規出版 監修：児童育成協会 編集：西村重稀・水田敏郎					
授業の形態 講義・演習					
／方法 講義も演習も、教科書を使用する。（教科書内に演習問題が多数ある）					
評価方法 筆記試験50％、授業参加度（態度等）50％で総合的に評価する。					
その他の事項					

授業科目名	社会的養護Ⅱ	講師名	原 悦子
実施年次 ／時期	2年次 前期	時間数	30 時間
概要 本科目では、社会的養護方法（実践）など基本的な内容について理解し、さらにそれらを演習によって深める。また、社会的養護におけるソーシャルワークや社会資源の活用を学び、保育士に必要な知識、技術、実践について理解を深める。			
目標 1. 子ども理解に基づく社会的養護について理解することができる 2. 社会的養護における計画・記録・自己評価について理解することができる 3. 社会的養護の実践について理解することができる 4. 虐待の防止と家庭支援について理解することができる 5. 保育士の専門性にかかわる知識・技術とその実践について理解することができる			
内容 1. 子どもの権利擁護 2. 社会的養護における子どもの理解 3. 社会的養護の内容① 日常生活支援 4. 社会的養護の内容② 心理的支援 5. 社会的養護の内容③ 自立支援 6. 施設養護の生活特性および実際① 乳児院等 7. 施設養護の生活特性および実際② 障害児施設等 8. 家庭養護の生活特性および実際 9. アセスメントと個別支援計画の作成 10. 記録および自己評価 11. 社会的養護における保育の専門性にかかわる知識・技術とその実践 12. 社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実践 13. 社会的養護におけるソーシャルワーク 14. 社会的養護における家庭支援 15. まとめ			
教科書 『新 基本保育シリーズ 18 社会的養護Ⅱ』（中央法規）			
授業の形態 演習 ／方法 ／教科書を中心とし、必要に応じて資料などを使用する。 演習はグループワークなどを行います。			
評価方法 筆記試験 50%、授業時に行うレポート・課題への対応・発表業況など 50%			
その他の事項 社会福祉士として5年以上の実務経験のある教員が講義を行う。			

授業科目名	子育て支援	講師名	北村博文
実施年次 ／時期	2年次 前期	時間数	30 時間
概要 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の揭示等の支援について、その特性と展開を具体的に理解する。また、保育士の行う子育て支援についてさまざまな場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。			
目標			
1. 子育て支援の意義と目的の理解ができる 2. 効果的な子育て支援の進め方の理解ができる 3. 児童問題における事例より子育て支援の技術を習得することができる			
内容			
1. 子育て支援の構造 2. 社会の変化と子育て家庭をめぐる問題 3. 子育て支援の実施体制 4. 「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」等における子育て支援 5. 子育て支援におけるソーシャルワーク 6. ソーシャルワークの定義と原則 7. ソーシャルワークにおける面接技法 8. 環境を通した子育て支援 9. 送迎時における子育て支援 10. 個人面談、懇談会における子育て支援 11. 連絡ノート、園だより等を通した子育て支援 12. 園庭開放、体験保育、行事、保育参観等による子育て支援 13. 児童福祉施設における子育て支援 14. 子育て支援の課題と展望 15. まとめ			
教科書	「子ども家庭福祉専門職のための子育て支援入門」編著者：才村純・芝野松次郎・新川泰弘・宮野安治		
授業の形態 ／方法	演習 ／教科書を使用する。		
評価方法	筆記試験 90%、小テストと授業参加度（態度など） 10%で総合的に評価する。		
その他の事項			

授業科目名	造形表現Ⅱ	講師名	板谷雅子
実施年次 ／時期	1 年次 後期	時間数	30 時間
概要 造形表現の理解を深め、幼児と造形表現の大切さを学ぶ			
目標 1. さまざまな表現方法を知り、造形表現の理解ができる 2. 技法や素材の性質を知り、応用力を身につけることができる 3. 子どもの感性を豊かにする造形活動のイメージができる			
内容 1. オリエンテーション 2. 子どもの作品を見る（幼児理解） 3. 作って遊ぶ（歌絵本） 4. 作って遊ぶ（歌絵本） 5. 作って遊ぶ（歌絵本） 6. 様々な素材を用いて表現する（ちぎり絵） 7. 様々な素材を用いて表現する（ちぎり絵） 8. 様々な素材を用いて表現する（飛び出すカード） 9. 様々な素材を用いて表現する（砂絵） 10. 様々な素材を用いて表現する（はんこ） 11. 様々な素材を用いて表現する（絵手紙） 12. 様々な素材を用いて表現する（プラバン） 13. 様々な素材を用いて表現する（切り絵） 14. 様々な素材を用いて表現する（見立て遊び） 15. まとめ			
教科書は使用せず、必要に応じてプリントを配付			
授業の形態 演習 ／方法 教員による説明や実演などから課題の内容を理解し、学生各自が創意工夫しながら制作に取り組む。			
評価方法 授業態度 20% 課題 60% 試験 20%を総合して評価する			
その他の事項			

授業科目名	表現Ⅱ	講師名	森崎良尚
実施年次 ／時期	2年次 通年	時間数	60 時間
概要			
こども達の表現力を引き出すために、保育者自らが豊かな表現力を身に付けることが大切であることを再確認し「表現Ⅰ」の内容を更に深めます。また、こども達のお手本となるように、日常生活態度や立ち居振る舞いを見直し、プロ意識を高め就職準備を進めます。 最終目標は、クラスメイト同士が「お互いを保育者として認め合える」です。楽しく苦勞しましょう。 授業内容や順序は、皆さんの様子や到達状況を見て調整する場合があります。			
目標			
1. 自分自身の表現力を見直し、得意な部分を更に伸ばすことができる 2. 自分自身の表現力を見直し、苦手な部分を克服することができる 3. 「こども達の表現力を引き出す」を意識した言動を考え、模擬設定保育が実践できる			
内容			
1. 「表現Ⅰ」の振り返り 2. 教育実習準備(「たなばたさま」うた・ピアノ) 3. 教育実習準備(「たなばたさま」歌唱指導) 4. 教育実習準備(「たなばたさま」設定保育) 5. 話し方・聞き方(就職模擬面接) 6. 話し方・聞き方(討論) 7. 話し方・聞き方(議論) 8. 空気で遊ぼう・パントマイム 9. ジェスチャーゲーム・人間オブジェ 10. ジェスチャーしりとり・1枚の写真 11. 間違っていて覚えている童謡(どんぐりころころ・ゆき) 12. 「どんぐりころころ」1番の素話 13. 「どんぐりころころ」2番 歌唱 14. 「どんぐりころころ」3番 歌詞創作と振付 15. 「どんぐりころころ」発表会 16. 模擬設定保育(誕生日会) 17. ※保育園・幼稚園・こども園・障害児施設 18. 児童養護施設から対象を選び「誕生日会 19. で大切にしたいこと」をテーマにグルー 20. プ内で保育者役と子ども役を決め実施 21. 絵本と効果音① 22. 絵本と効果音② 23. ストーリー性のある身体表現① 24. ストーリー性のある身体表現② 25. こどもの表現力を引き出す手がかり・卒業課題 26. 指導者の表現力を磨き続ける手がかり・卒業課題 27. 指導者の表現力と子どもの表現力の関係性・卒業課題 28. 表現Ⅰ・Ⅱを通して自分の表現力を振り返る・卒業課題 29. あなたが保育者として望む子どもの表現力・卒業課題 30. 卒業課題 発表会			
教科書	適宜資料配布		
授業の形態	演習		
／方法	／授業前半：毎回一人で前に出て、与えられた課題にチャレンジする。 授業後半：グループワークなどで表現活動を行い保育方法を学ぶ。		
評価方法	毎時間の実技試験と期末実技試験		
その他の事項			

授業科目名	音楽表現 I	講師名	森崎 他
実施年次 ／時期	1 年次 通年	時間数	60 時間
概要 保育内容を理解し、具体的な音楽表現活動が展開できる技術と音楽的知識の習得を目的とする。また保育内容にそって、子どもの音楽活動を援助し、成長過程における豊かな人格形成（情緒・表現鑑賞等）を育成することをテーマに学習する。			
目標 1. ト音記号・ヘ音記号の読譜ができる 2. 右手弾き→右手弾き歌い→左手弾き→左手弾き歌い→両手弾き→両手弾き歌いの練習過程を理解し実践できる 3. 前奏から歌に入る際に「さんはい」の合図ができる 4. 童謡弾き歌いをフルコーラスノーミスで、1 年間に最低 15 曲合格できる			
内容 1. クラス分け・オリエンテーション 2. ※以降の授業は、入学合格者課題である 3. ピアノ弾き歌い、数曲の到達度をもと 4. に個人のレベルに応じた個人レッスン 5. や基礎楽典指導を実施する。 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 前期のまとめとして発表会を実施 16. ※個人の上達に合わせてピアノ教則本 17. を使用する。ただし、バイエル 66 番 18. 以降のレベルの曲とする。 19. 保育所実習での課題曲も曲数カウント 20. の対象とする。 21. 22. 23. 24. 25. 26. 保育所実習課題曲到達度確認 27. 保育所実習課題曲到達度確認 28. 29. 30. 後期のまとめとして発表会を実施			
教科書 保育のうた・こどものうた 120			
授業の形態 演習 ／方法 5～6 名のグループに分かれての個人レッスンとグループレッスン。			
評価方法 授業中に合格した曲数と実技試験。			
その他の事項			

授業科目名	造形表現Ⅰ	講師名	板谷雅子
実施年次 ／時期	1 年次 前期	時間数	30 時間
概要 ①造形の基本的な理論と基礎技術を習得する ②具体的にテーマに沿った制作を体験し子どもの造形活動の具体的な支援方法、「素材の設定」「環境準備」「道具の扱い」「声かけ」「指示方法」「ねらい」などを理解する。			
目標 1. 子どもの発達と造形表現について理解できる 2. 造形の基礎的な知識や技術を習得できる 3. 造形表現の良さや楽しさを実感し、感性を豊かできる (授業中の作業速度、内容理解や興味に応じて内容は、可変)			
内容 1. オリエンテーション 2. 作品袋づくり 3. 作品袋づくり 4. 色について 5. 平面技法の基本 モダンテクニックを使って (マーブリング) 6. 平面技法の基本 マーブリングを使ってうちわづくり 7. 平面技法の基本 モダンテクニックを使って (スクラッチ) 8. 平面技法の基本 モダンテクニックを使って (スクラッチ) 9. 平面技法の基本 モダンテクニックを使って (はじき絵) 10. 平面技法の基本 モダンテクニックを使って (フロタージュ) 11. 平面技法の基本 モダンテクニックを使って (スタンピング) 12. 平面技法の基本 モダンテクニックを使って (ステンシル) 13. 立体表現① 14. 立体表現② 15. まとめ			
教科書は使用せず、 必要に応じてプリント配付			
授業の形態 ／方法	演習 教員による説明や実演などから課題の内容を理解し、学生各自が創意工夫しながら制作に取り組む。		
評価方法	授業態度 20% 課題 60% 試験 20%を総合して評価する		
その他の事項			

授業科目名	身体表現	講師名	相奈良 律
実施年次 ／時期	2年次 前期	時間数	30 時間
概要 身体表現活動の実践を通して、子どもの発達と表現活動について理解を深める。また、子どもの発達段階に応じた身体表現の実践を通して、動きを引き出す指導方法および的確な保育者の援助について理解を深める。			
目標 実践的な身体表現活動を通して、子どもの発達段階に応じた身体表現活動の題材や指導方法について学習し、保育者として指導方法および援助について理解を深める。			
内容 1. オリエンテーション、「身体表現」とは 2. 模倣と身体表現① 3. 模倣と身体表現② 4. 手遊びやわらべ歌を用いた身体表現 5. 個と集団の身体表現①（ゲームや鬼ごっこを通してコミュニケーションをはかる身体表現） 6. 個と集団の身体表現②（即興やリズム遊びを通してコミュニケーションを深める身体表現） 7. 身近な素材を用いた身体表現 8. 季節や行事に合った遊びやダンス① 9. 季節や行事に合った遊びやダンス② 10. ダンス創作・発表 11. パラバルーン 12. 模擬保育に向けた指導内容の検討（指導案） 13. 模擬保育（発表準備） 14. 模擬保育実践・ふりかえり 15. 模擬保育実践・ふりかえり			
教科書 使用しない 必要に応じて適宜、資料を配布する			
授業の形態 演習 ／方法 模擬保育では、テーマに即して創作した表現運動を発表する 毎時、講義ノートに感想や気づきを記録する			
評価方法 出席・受講態度（授業内の取り組みと発表）50%、指導案 10%、模擬保育実践 40%			
その他の事項			

授業科目名	言語表現	講師名	北村博文
実施年次 ／時期	1 年次 前期	時間数	30 時間
概要 児童文化財とは何か、表現とは何か、子どもの言葉の発達、保育内容の領域「言葉」とのかかわり、子どもの言葉を豊かに育む保育者の役割について学びます。			
目標			
1. 児童文化財の基本的な意味の理解ができる 2. 保育内容「言葉」との関わりについて理解ができる 3. 保育者の言語表現技術を実践的な側面から学ぶことができる			
内容			
1. 児童文化財とは何か 2. 児童文化と表現 3. 子ども（乳幼児）のことばの発達 4. 児童文化財とことば 5. 子どものことばを豊かに育む保育者の役割 6. 「絵本」についての実践演習① 7. 「絵本」についての実践演習② 8. 「絵本」についての実践演習③ 9. 「人形劇」についての実践演習① 10. 「人形劇」についての実践演習② 11. 「人形劇」についての実践演習③ 12. 「ペープサート」についての実践演習① 13. 「ペープサート」についての実践演習② 14. 「ペープサート」についての実践演習③ 15. まとめ			
教科書	「保育者のための言語表現の技術」古橋 和夫編 （萌文書林）		
授業の形態	演習		
／方法	／保育者としての言語表現技術を身につけるために実践と発表を行う。		
評価方法	筆記試験（50%）、実践・発表と授業態度（50%）を総合して判断する。		
その他の事項			

授業科目名	音楽表現Ⅱ	講師名	森崎 他
実施年次 ／時期	2年次 通年	時間数	60 時間
概要			
音楽表現Ⅰで習得した演奏技術を更に深めレパートリーを増やすとともに、卒業後の学習に向けての練習方法を身に付ける。 中級者・上級者に対しては、教則本なども積極的に取り入れ就職採用試験に備える。また、さまざまなジャンルの曲にも挑戦し音楽性を深める。			
目標			
1. 前期、採用試験対応として、ピアノ弾き歌い曲2曲とピアノ曲1曲を完成できる 2. 音楽表現Ⅰ合格曲の反復とともに、レパートリーを増やすことができる 3. 様々なジャンルの曲やアレンジに挑戦できる			
内容			
1. クラス分け・オリエンテーション 2. ※担当教員と進路面談を行い、進路に沿ったレッスンスケジュールを立てる。 3. 保育園・幼稚園・こども園以外に就職を希望する者に対しては、施設の行事などを意識して選曲する。 4. また、教育実習での課題曲も練習する。 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 前期のまとめとして発表会を実施		16. ※レパートリーを増やすとともに、就職採用試験用の3曲を仕上げる。 17. 立って弾く・喋りながら弾く・鍵盤を見ないで弾く等にも挑戦する。 18. また、後期試験に備えて、卒業課題の練習に取り組む。 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 後期のまとめとして発表会を	
教科書			
保育のうた・こどものうた 120			
授業の形態 演習			
／方法 5～6名のグループに分かれての個人レッスンとグループレッスン			
評価方法 授業中に合格した曲数と実技試験。			
その他の事項			

授業科目名	レクリエーション実技	講師名	北村博文
実施年次 ／時期	1年次 通年	時間数	60 時間
概要 人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めたレクリエーション技術を用いて、安全に援助できる技術や知識を習得する。演習で学んだことを振り返りながら、記録としてまとめる力も身につける。			
目標			
1. レクリエーションの意義と目的の理解ができる			
2. レクリエーションの設定立案ができる			
3. 各自で設定立案したレクリエーション実技において、安全に援助ができる			
4. 演習で学んだことを振り返り、記録としてまとめることができる			
内容			
1. レクリエーションの意義と目的		16. レクリエーション支援の理論	
2. レクリエーション体験（乳児）		17. レクリエーション体験（児童）	
3. レクリエーション体験（幼児）		18. レクリエーション体験（児童）	
4. レクリエーション体験（幼児）		19. 教材を使ったレクリエーション体験（児童）	
5. 教材を使ったレクリエーション体験（乳児）		20. 教材を使ったレクリエーション体験（児童）	
6. 教材を使ったレクリエーション体験（幼児）		21. 教材を使ったレクリエーション体験（児童）	
7. 教材を使ったレクリエーション体験（幼児）		22. レクリエーション支援の方法	
8. 楽しさと心の元気づくりの理論		23. レクリエーション発表（児童）①	
9. レクリエーション発表（乳児）①		24. レクリエーション発表（児童）②	
10. レクリエーション発表（乳児）②		25. レクリエーション発表（児童）③	
11. 教材を使ったレクリエーション発表（乳児）③		26. 教材を使ったレクリエーション発表（児童）④	
12. レクリエーション発表（幼児）④		27. 教材を使ったレクリエーション発表（児童）⑤	
13. レクリエーション発表（幼児）⑤		28. 教材を使ったレクリエーション発表（児童）⑥	
14. 教材を使ったレクリエーション発表（幼児）⑥		29. レクリエーション発表の評価と振り返り	
15. まとめ		30. 全体のまとめ	
教科書 なし：必要に応じて資料を配布する。			
授業の形態 演習			
／方法 ／プリントを配布し、実践演習を行う。			
評価方法 筆記試験50%、実技試験と授業参加度（態度等）50%で、総合的に評価する。			
その他の事項			

授業科目名	保育実習指導 I	講師名	木下孝一・板谷雅子 吉川美和子・小川夕也
実施年次 ／時期	1 年次 通年	時間数	60 時間
概要 保育実習は「理論」と「実践」を結ぶ大切な機会であり、それぞれの実習において明確な課題を持って臨む必要があります。本授業ではなぜ実習が必要であるかを正しく理解し、准職員として実習を行う上で必要となる知識・技術の習得を目指します。また、自身の実習を振り返り、保育士の専門性についての理解を深めていきましょう。			
目標 1. 保育実習の意義・目的を理解できる 2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にすることができる 3. 実習施設における子どもの人権および守秘義務について理解できる 4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解することができる 5. 実習の事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、今後の実習に向けた課題や目標を明確にすることができる			
内容 1. オリエンテーション 必要書類の作成 2. 実習の意義と目的 3. 子どもの理解①（0～2歳） 4. 子どもの理解②（3歳～就学前） 5. 保育所見学① 子どもの生活 6. 保育所見学② 保育の環境 7. 特別な支援が必要な子どもの保育 8. 子どもの人権、守秘義務の理解 9. 施設実習の目的 10. 児童福祉施設の理解 11. 障害者支援施設の理解 12. 保育実践 基礎編①（制作遊び） 13. 保育実践 基礎編②（季節の遊び） 14. 保育実践 基礎編③（ことば・集団遊び） 15. 前半まとめ 16. 保育実践 応用編①（制作遊び） 17. 保育実践 応用編②（季節の遊び） 18. 保育実践 応用編③（ことば・集団遊び） 19. 保育実践 応用編④（リズム遊び） 20. 保育実践 振り返り 21. 実習オリエンテーションについて 22. 実習課題を考える（前レポート） 23. 実習記録の書き方（実習記録の取り扱い） 24. 実習記録の書き方（日々のねらい） 25. 実習記録の書き方（1日の生活の流れ） 26. 実習指導案の書き方（ねらいと内容） 27. 実習指導案の書き方（0～2歳児保育） 28. 実習指導案の書き方（3～5歳児保育） 29. 実習注意事項 30. 後半まとめ			
教科書 『新基本保育シリーズ 保育実習』児童育成協会 監修（中央法規） 『保育指導案大百科事典』開仁志（一藝社） 『実習手引書』こども未来学科（南海福祉看護専門学校）			
授業の形態 演習 ／方法 ／教科書および配布プリントによる講義、実習に向けた遊びの実践などを行います。			
評価方法 筆記試験 80%、授業への参加度 20%で総合的に評価します。			
その他の事項 実習に関する諸手続きは締め切りを厳守すること。			

授業科目名	保育実習指導Ⅱ	講師名	板谷雅子・小川夕也
実施年次 ／時期	2年次 前期	時間数	30 時間
概要 本授業は、保育実習の意義と目的を理解し、実習の計画、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解し、保育所・施設実習Ⅱの準備に必要な知識と実践について総合的に学ぶことを目的とする			
目標 1. 保育所実習、施設実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解できる 2. 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を身に付けることができる 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解できる 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解できる			
内容 1. オリエンテーション 選択実習について 2. 実習の手続きについて①（実習生カード、個人調査票等） 3. 実習記録について① 実習記録の活用及び記録の取り方 4. 実習記録について② 実習記録作成のポイント 5. 指導案・支援計画書の書き方のポイント 6. 指導案・支援計画書の作成 7. 実習前レポートの作成 8. 保育所実習 ①実習の学びと課題設定 / 施設実習 ①実習の学びと課題設定 9. 保育所実習 ②模擬保育と指導案の書き方（制作遊び） / 施設実習 ②食事・排せつに関する支援 10. 保育所実習 ③模擬保育と指導案の書き方（季節の遊び） / 施設実習 ③衣類・身体の清潔に関する支援 11. 保育所実習 ④模擬保育と指導案の書き方（ことば・集団遊び） / 施設実習 ④コミュニケーションと自己表現 12. 保育所実習 ⑤模擬保育と指導案の書き方（リズム遊び） / 施設実習 ⑤社会規範とマナーに関する支援 13. 実習における注意事項① 実習に向けての基本的マナーと心構え 14. 実習における注意事項② 実習前後の手続きについて 15. まとめ			
教科書 『新基本保育シリーズ 保育実習』児童育成協会 監修（中央法規） 『保育指導案大百科事典』開 仁志 編（一藝社） 『実習手引書』児童福祉科 編（南海福祉看護専門学校）			
授業の形態 演習			
／方法 教科書や資料を使用し、グループワークやロールプレイングを中心に授業を進める。			
評価方法 筆記試験 50%、授業参加度（提出物、授業態度など）50%で総合的に評価する。			
その他の事項			

授業科目名	保育実践演習	講師名	板谷雅子
実施年次 ／時期	2年次 通年	時間数	60 時間
概要 教職の意義や保育者の役割や専門性など確認し、具体的な保育内容や子ども理解について学ぶ			
目標 これまで学んだ学習知と教育実習で得られた指導力や実践知とのさらなる統合を図り、使命感や責任感に裏付けされた確かな実践的指導力を身に付けることを目的とし、幼稚園での実践を中心としながらも、幼稚園と小学校との連携と接続、保育所と幼稚園との連携などを意識し、教育現場や保育現場で直面する問題に対しての対応力を学ぶことができる			
内容			
1. 前期ガイダンス		16. 後期ガイダンス	
2. 保育者の歩みと足跡①保育者とは		17. 保育の実践の振り返りの方法と実際	
3. 保育者の歩みと足跡①保育者実践的力量		18. 保育内容と保育方法 伝承遊び	
4. 園の安全管理		19. 保育内容と実践研究 伝承遊び	
5. 子ども理解の方法と実践① 実践的理解		20. 保育内容と実践研究 幼小連携	
6. 子ども理解の方法と実践② 子ども理解と記録		21. 保育内容と実践研究 指導要録	
7. 気になる子どもに行動の理解と対応① 保育現場の実際		22. 保育内容と実践研究 絵本	
8. 気になる子どもに行動の理解と対応② 必要な配慮		23. 共同的な学びと育ち① 共同的な学びの意義	
9. 教育課程・保育課題を考える①保育カリキュラム		24. 共同的な学びと育ち② 共同的な遊びの実際	
10. 教育課程・保育課題を考える②PDCA サイクル		25. 共同的な学びと育ち③ 共同的な遊びの実際	
11. 保育内容と保育方法の研究① 保育内容と方法		26. 共同的な学びと育ち④ 共同的な遊びの実際	
12. 保育内容と保育方法の研究② 指導計画		27. 保育者の専門性	
13. 保育内容と保育方法の研究③ 環境		28 保育者としての倫理	
14. カリキュラムデザイン		28. 保育士試験	
15. まとめ		30. まとめ	
教科書 小櫃智子・矢藤誠慈郎 編「保育教職実践演習これまでの学びと保育者への歩み」わかば社 2018			
授業の形態 講義演習			
／方法 ／教科書・配布プリントを中心とし、講師による解説・概説を行う			
評価方法 授業態度 30% 課題レポート 20% 試験 50%など総合して行う			
その他の事項			

授業科目名	卒業研究	講師名	北村博文
実施年次 ／時期	2年次 後期	時間数	30 時間
概要 「幼児教育に関する保育の方法について学ぶ。特に野外における遊びを対象に、季節感・自然事象等について学びを深める。」ことをこの授業で学ぶ			
目標			
1. 季節感について体験することを目的とし、保育者として実践していくことができる			
2. 自然事象に関心を持ち、その保育内容や方法を学ぶことができる。			
内容			
1. オリエンテーション			
2. 土と水の観察			
3. 植物の観察			
4. 昆虫の観察			
5. 空・雲等の観察			
6. 土と水を使った遊びの実践①			
7. 土と水を使った遊びの実践②			
8. 植物を使った遊びの実践			
9. 空・風等を使った遊びの実践			
10. 卒業研究のまとめ①			
11. 卒業研究のまとめ②			
12. 卒業研究のまとめ③			
13. 卒業研究発表の準備①			
14. 卒業研究発表の準備②			
15. まとめ			
教科書	教科書は使用せず、 必要に応じてプリント配付		
授業の形態	演習		
／方法	/文献等の資料を活用し、遊びの実践を学ぶための実践を行う。		
評価方法	研究発表 80%、授業態度 20%で総合的に評価します。		
その他の事項			

授業科目名	卒業研究	講師名	森崎良尚
実施年次 ／時期	2年次 後期	時間数	30時間
概要 保育・教育現場に必要なパフォーマンス能力を高める。ピアノ・歌・楽器・絵本・紙芝居・朗読・身体表現・ダンス・コント・芝居・ミュージカル・司会など、自分の得意分野を追求し磨くことにより、自信を持って人前に立てる魅力ある保育者を目指す。個人やグループで課題を設定し、練習・レッスンを重ねた後に、舞台発表により成果を披露する。また、舞台発表に向けての練習・レッスン・場当たり・舞台練習・通し練習・リハーサル（ゲネプロ）・本番など、園での生活発表会などの企画・運営を学ぶ。			
目標 1. 選択した課題を、基本に忠実にミスなく表現できる。 2. その上で個性を十分に出し、自分らしく表現できる。 3. 観る人・聞く人を意識した表現(衣装・メイクを含む)ができる。 4. 出演者全員のチームプレイであることを認識した立ち居振る舞いができる。 5. される拍手・する拍手の意味を考えて実施することができる。 6. 自己評価・他己(者)評価・多面評価を整理し、次のステップに繋ぐことができる。			
内容 1. オリエンテーション 2. パフォーマンス設定 練習・レッスン 3. パフォーマンス設定 練習・レッスン 4. 個人・グループに分かれた練習 レッスン 5. 個人・グループに分かれた練習 レッスン 6. 個人・グループに分かれた練習 レッスン 7. 個人・グループに分かれた練習 レッスン（目標「1」到達予定） 8. パフォーマンス披露 多面評価 プログラム（案）決定		9. 個人・グループに分かれた練習 レッスン 10. 舞台場当たり 練習・レッスン 11. 個人・グループに分かれた練習 レッスン 12. 舞台通し練習 司会進行方法決定 13. 舞台通し練習 最終プログラム決定 14. 最終ダメ出し 確認練習・レッスン 15. まとめ 成果発表	
教科書	なし：必要に応じて資料を配布する。		
授業の形態	演習 方法：個別練習・レッスン・全体練習		
評価方法	卒業研究（80％）及び 授業態度（20％）を総合して評価を行なう。		
その他の事項			

授業科目名	卒業研究	講師名	木下孝一
実施年次 ／時期	2年次 後期	時間数	30 時間
概要 各自の問題意識を明確にした上で、幼児教育に関する保育内容や方法の学びを深めることを目的とする。具体的な事例を通して、多角的に保育を研鑽することを通して、実践力の向上に努める。			
目標 1. 子ども理解に基づいた保育の多様な展開について理解できる 2. 文献等を通して、現代の保育にまつわる課題を理解し、子どもを取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史的変遷等を理解できる 3. 保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程につなげて理解できる			
内容 1. オリエンテーション 2. 保育の基本と諸課題について 3. 課題の設定① 4. 課題の設定② 5. 文献、資料の探索、収集、整理① 6. 文献、資料の探索、収集、整理② 7. 文献、資料の探索、収集、整理③ 8. ディスカッション① 9. ディスカッション② 10. 保育内容の研鑽 11. 保育方法の研鑽 12. 研究発表準備① 13. 研究発表準備② 14. 研究発表準備③ 15. まとめ			
教科書 なし			
授業の形態 演習			
／方法 適時文献等の資料を活用し、グループワーク等の演習を行う。			
評価方法 研究発表（80％）、および授業態度（20％）を総合して評価を行う。			
その他の事項 幼稚園教諭として4年以上の実務経験のある教員が講義を行う。			

授業科目名	卒業研究	講師名	小川夕也
実施年次 ／時期	2年次 後期	時間数	30 時間
概要	これまでの学生生活で身に付けてきた保育・福祉の知識や技能をもとに、各自テーマを探して研究し、発表することを目的としています。これからの社会を生き抜くため、できる限り広い視野を持ち、様々な意見に耳を傾けることで大きく成長していきましょう。 こちらからテーマを設定する場合がありますが、できる限りゼミ生の考えを尊重していきたいと考えています。		
目標	1. これまでに得た知識をもとに自分が追究したいテーマを自ら選び、まとめることができる。 2. 自分の研究について、分かりやすく発表することができる。 3. 自分または他の学生の研究について、積極的なディスカッションを行うことができる。		
内容	1. オリエンテーション 2. テーマの検討（他の学生とのディスカッション含む） 3. レジューメ作成、発表 4. テーマ毎の事例研究および実践① 5. テーマ毎の事例研究および実践② 6. テーマ毎の事例研究および実践③ 7. テーマ毎の事例研究および実践④ 8. 中間報告（グループディスカッション） 9. テーマ毎の事例研究および実践⑤ 10. テーマ毎の事例研究および実践⑥ 11. テーマ毎の事例研究および実践⑦ 12. 発表準備（発表資料の作成） 13. 発表準備（原稿の作成） 14. 発表準備（リハーサル） 15. まとめ		
教科書	特になし		
授業の形態	演習		
／方法	／情報収集、制作、ディスカッションなど必要に応じた演習を行う。		
評価方法	研究発表（80%）および授業態度（20%）を総合して評価を行う。		
その他の事項	保育士として5年以上の実務経験のある教員が講義を行う。		

授業科目名	卒業研究	講師名	板谷雅子
実施年次 ／時期	2 年次 後期	時間数	30 時間
概要 「幼児教育全般にわたり、現場で大切にしていること」をこの授業で学ぶ			
目標 1. 自分の引き出しを増やすことを目的とし、実践していくことができる 2. 現場での実践を知り、幼児理解を深めることができる			
内容 1. オリエンテーション 2. 卒業ゼミのねらい・目的・内容についての話し合い 3. 実践 4. 実践 5. 実践 6. 実践 7. 実践 8. 実践 9. 実践 10. 実践 11.他園見学(環境を学ぶ) 12. 他園見学の振り返り 13. 反省及び研究の考察 14. 反省及び研究の考察 15. まとめ			
教科書	教科書は使用せず、 必要に応じてプリント配付		
授業の形態	幼児教育全般について、教員による説明や実演、見学などから課題の内容を理解し、 学生各自が自らの課題に向かって研究に取り組む。		
／方法			
評価方法	研究発表 30%、授業態度 70%で総合的に評価します。		
その他の事項	幼稚園教諭として 5 年以上の実務経験のある教員が講義を行う。		

授業科目名	卒業研究	講師名	原 悦子
実施年次 ／時期	2年次 後期	時間数	30 時間
概要 ヨガを通して呼吸に意識を向け、自身の身体感覚、自己感覚をより明瞭に、繊細に捉え、集中力を高めることを学びます。 体を整え、呼吸を整えることで心が整うことを学び、日々のご自身のストレスコントロールや身体を健やかに調整する基礎的な力を身につけていきます。また、ADHDや発達に課題を抱える子どもや保護者への支援に活かせるようなプログラムの検討を行います。			
目標 1. ヨガ哲学に触れ、八支則について理解できる 2. 自身に意識を向ける練習をし、外の情報や刺激に感わされない安定した心を育むことができる 3. 体幹を鍛えることで、身体の安定と心の安定を得ることができる 4. ヨガを通して自身の生活習慣を見直し、改善点を見つけることができる			
内容 1. オリエンテーション 2. 八支則（ヤマ①）アーサナ1 3. 八支則（ヤマ②）アーサナ2 4. 八支則（ニヤマ①）アーサナ3 5. 八支則（ニヤマ②）アーサナ4 6. 八支則（プラーナヤーマ）アーサナ5 7. 八支則（プラッティヤハーラ）アーサナ6 8. 八支則（ダーラナ、ディヤーナ、サマーディ）アーサナ7 9. ヨガフロー 10. キッズヨガ 11. キッズヨガ2 12. 太陽礼拝① 13. 太陽礼拝② 14. 振り返りと研究発表の準備 15. まとめ			
教科書 なし			
授業の形態 演習 ／方法			
評価方法 研究発表（80％）と授業態度（20％）を総合して評価を行う。			
その他の事項			

授業科目名	卒業研究	講師名	吉川 美和子
実施年次 ／時期	2 年次 後期	時間数	30 時間
概要	これまでの学生生活で身に付けてきた保育・福祉の知識や技能をもとに、各自テーマを探して研究し、発表することを目的としています。これからの社会を生き抜くため、できる限り広い視野を持ち、様々な意見に耳を傾けることで大きく成長していきましょう。 こちらからテーマを設定する場合がありますが、できる限りゼミ生の考えを尊重していきたいと考えています。		
目標	1. これまでに得た知識をもとに自分が追究したいテーマを自ら選び、まとめることができる。 2. 自分の研究について、分かりやすく発表することができる。 3. 自分または他の学生の研究について、積極的なディスカッションを行うことができる。		
内容	1. オリエンテーション 2. テーマの検討（他の学生とのディスカッション含む） 3. レジューメ作成、発表 4. テーマ毎の事例研究および実践① 5. テーマ毎の事例研究および実践② 6. テーマ毎の事例研究および実践③ 7. テーマ毎の事例研究および実践④ 8. 中間報告（グループディスカッション） 9. テーマ毎の事例研究および実践⑤ 10. テーマ毎の事例研究および実践⑥ 11. テーマ毎の事例研究および実践⑦ 12. 発表準備（発表資料の作成） 13. 発表準備（原稿の作成） 14. 発表準備（リハーサル） 15. まとめ		
教科書	特になし		
授業の形態	演習		
／方法	／情報収集、制作、ディスカッションなど必要に応じた演習を行う。		
評価方法	研究発表（80%）および授業態度（20%）を総合して評価を行う。		
その他の事項	保育士として5年以上の実務経験のある教員が講義を行う。		